

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 白井 亮洋  
所属 (School) 工学研究科博士後期課程  
学年 (Grade) 2年

留学先 (Name of overseas institution)  
淡江大学(台湾)

留学期間 (study abroad period)  
2018年3月4日～  
2018年3月17日

記入日 (Date) 2018年3月19日

## 留学レポート Study Abroad Report

今回、私は台湾・淡江大学に2週間、語学留学をしました。昨年末に趣味の1つとして中国語の勉強を始めました。当初は楽しかったものの第2言語学習をしたことがない私にとって、独学での上達に限界を感じていたころ、この淡江大学主催の台湾短期留学プログラムの存在を知りました。博士後期課程の学生なので、主専攻の研究活動に専念すべきだという考えもあったのですが、学生の時にしかできない体験をたくさん積むことも大切だと考え、本プログラムに申し込みました。

一般的に、語学留学は学部生が多く参加する、という噂通り、全40名程度の学生のうち30名以上が大学1,2年生と非常にフレッシュな環境に身を置くこととなりました。初日は特に緊張していましたが、淡江大学の学生スタッフは皆親切で、ガイダンスの合間の雑談で随分と緊張が解れました。

本プログラムでは、各学生のレベルにあった授業を提供するため、2日目にクラス分け試験(筆記試験・音読試験・面接試験)が実施されました。簡単な文法を一通り学習していたので、筆記試験はかなりの高得点をとれた一方、音読試験と面接試験はかなり苦戦したと記憶しています。しかし、「对不起、請再說一遍(すみません、もう一度言ってください)」を多用し、なんとか答えようとする姿勢が評価されたからか、一番上のクラスに配属されました。

来年、このプログラムに行きたい学生へのアドバイスとしては、簡単な自己紹介を筆記・口頭の両方でできるようにしておけば、一番下のクラスにはならないと思います。また、中国語の勉強は2の次で、単に台湾に遊びに行きたいだけ、という動機で申し込む他大学の学生もたくさんいたので、それはそれで問題ないかと思います。

私が配属されたクラスは、中国語専攻の学生が多く、先生の説明は例外を除いてすべて中国語でした。配布された教材が扱っている文法のレベルはそこまで高くないと感じましたが、やはり口語的な表現を多く含む先生の説明を聞き取ることは非常に難しかったです。学習の進め方は、習った文法を使ってひたすら作文・口頭発表の繰り返しでした。普段読み書きしか勉強していない私にとって、扱っている文法が簡単であっても、いざ話そうとすると著しく流暢さに欠けてしまい、何度も注意されました。ピンイン・四声の重要性をあまりよくわからないまま、我流で勉強してきたため、クラスメイトの学生に私の発音を聞いてもらったところ、全然わからないと言われ、その時はショックを受けましたが、おかげで今後の学習方針が決まってよかったと思います。週末を除いて、毎日朝9時から夕方6時まで授業があったため、日に日にクラスメイトと打ち解けることができ、最終的には年齢差を感じないまでに至った。

毎週末はルームメイトなど、普段の授業では交流のない学生と台北名物の夜市を散策したり、動物園や遊園地に行ったりしました。そこにも淡江大学の学生スタッフが来てくれて、気軽にいつでも中国語について質問ができる環境が整っていたと思います。時間的な都合上、多数ある観光名所のうちほんの一握りしか行けませんでした。バスや地下鉄といった公共交通機関を一通り乗りこなすことができたので、次回また台湾に行く機会があれば、個人的に訪れたいと思いました。

海外留学は少しハードルが高いと感じる学生もたくさんいるかと思いますが、本プログラムは学生スタッフが非常に親切で、夜の点呼の実施など安全面にも気を配っているため、一度も海外に行ったことがない学生にもお勧めできると私は感じた。

以下は本プログラムに関わらず、少しでも留学してみたいと考えている学生に向けたささやかなアドバイスです。

まず、どんな国でもいいので行ってみるのが大事だと思います。確かに留学は決して安いものではないので、躊躇してしまう気持ちはよくわかりますが、奨学金を割いてもチャレンジしてみるべきだと思います。特に語学においては、いかに机の上で一生懸命やっても現地の人に通用しなければ意味がありません。自分の本当の実力を知る上でも、また今後の学習の方針を考える上でも、留学に勝るものはないと思います。更に、私が参加したような他大学の学生が参加するタイプの留学プログラムでは、同年代の友人がたくさんで見るというメリットがあります。私のように理系で言語を専攻としない学生にとって、言語を極めようとしている友人ができるということは、今後のモチベーション維持に繋がります。

幸い、大阪府立大学は淡江大学を含め数多くの大学と提携しており、年中何かしらの留学プログラムが実施されています(学生ポータル参照)。その上、助成金制度もあるため、学生個人にかかる負担は軽く済む場合もあります。私はそういったことをあまり知らずに大学院生になってしまいましたが、もし知っていたら、学部時代に留学をしていたと確信しています。なのでぜひ、少しでも留学してみたいと考えている方は、時々学生ポータルをチェックして、興味のある留学プログラムの案内が掲示されていたら、国際交流グループに問い合わせることをお勧めします。

以上



クラスメイトと先生(孔老師, 潘老師)との集合写真



授業風景(ディスカッション形式)